

Abstract of JP6-114139

PURPOSE: To ascertain whether a swing is executed correctly or not, and also, to receive an appropriate advice, and to reform the own swing form.

CONSTITUTION: A video film before being corrected, in which at least a player side face part at the time of address of a golf swing, a player side face and a front part at the time of club top, and a player side face part of an impact are photographed is taken out onto a display. Also, this device is provided with a still picture output part of a computer obtained by a still picture of at least each part, a perform image output part 4 which can display the correct swing concerned on these respective parts, a means 37 for superposing together an output signal of the still picture output part and a signal of the reform image output part 4, a file for displaying a character on the superposed screen by inputting a voice, and a means for recording this image in a video tape.

【特許請求の範囲】

【請求項1】少なくともゴルフスイングのアドレス時のプレイヤ側面部位、クラブトップ時のプレイヤ側面及び正面部位、インパクトのプレイヤ側面部位、が撮影された矯正される以前のビデオフィルムと、この矯正以前のビデオをディスプレイ上に取り出し、少なくとも上記アドレスの側面部位、クラブトップの側面及び正面部位、インパクト側面部位、で静止画像が得られるコンピュータの静止画像出力部と、上記アドレス部位におけるプレイヤの肩からクラブヘッドを結ぶ線を表示させプレイヤのクラブロッドとの角度を略々正しい10度乃至25度の角度に設定出来るようにしたアドレス側面矯正ファイル、クラブトップ側面部位でクラブグリップを握った両手の部分と両肘によって形成される三角形を正しい角度に設定出来るようにしたクラブトップ側面矯正ファイル、この時のクラブトップにおける正面部位はプレイヤの両肩幅が長手幅となる楕円形を表示させ、同プレイヤの両膝の幅が長手幅となる楕円形の側端を表示させ両楕円形を垂直方向で結ぶ平行な二本の線で作られる略々正しい円柱状の線クラブトップ正面矯正ファイル、プレイヤの肩からクラブロッドとヘッドを結ぶ線を表示させかつ同プレイヤの背面中央腰の上端と突き出された右足の膝の先端を結ぶ線を表示させそれぞれの線が略々正しい角度で平行に設定出来るようにしたインパクト側面矯正ファイル、を少なくとも有する矯正画像出力部と、上記静止画像出力部の出力信号と矯正画像出力部の信号を重ね併せせる手段と、重ねあわせた画面に音声入力により文字表示をするファイルと、この画像をビデオテープに記録する手段とを備えたことを特徴とするゴルフスイングが正しく成されているか否かの見極め装置

【請求項2】少なくともゴルフスイングのアドレス時のプレイヤ側面部位、クラブトップ時のプレイヤ側面、及び正面部位、インパクト時のプレイヤ側面部位、が撮影された矯正される以前のビデオフィルムと、この矯正以前のビデオをディスプレイ上に取り出し、少なくとも上記アドレスの側面部位、クラブトップの側面及び正面部位、インパクト側面部位、で静止画像が得られるコンピュータの静止画像出力部と、上記アドレス部位におけるプレイヤの肩からクラブヘッドを結ぶ線を表示させプレイヤのクラブロッドとの角度を略々正しい10度乃至25度の角度に設定出来るようにしたアドレス側面矯正ファイル、クラブトップ側面部位でクラブグリップを握った両手の部分と両肘によって形成される三角形を正しい角度に設定出来るようにしたクラブトップ側面矯正ファイル、この時のクラブトップにおける正面部位はプレイヤの両肩幅が長手幅となる楕円形を表示させ、同プレイヤの両膝の幅が長手幅となる楕円形を表示させ両楕円形を垂直方向で結ぶ平行な二本の線で作られる略々正しい円柱状の線を表示させたクラブトップ正面矯正ファイル、インパクト部位、プレイヤの肩からクラブロッドと

ヘッドを結ぶ線を表示させかつ、同プレイヤの背面中央腰の上端と突き出された右足の膝の先端を結ぶ線を表示させそれぞれの線が略々正しい角度で平行に設定出来るようにしたインパクト側面矯正ファイル、を少なくとも有する矯正画像出力部と、上記静止画像出力部の出力信号と矯正画像出力部の信号を重ね併せせる手段と、重ねあわせた画面に音声入力により文字表示をする手段と、この画像をビデオテープに記録する手段とを備え、上記矯正される以前のビデオフィルムからコンピュータ上のディスプレイ上に上記アドレスの側面部位を静止画像で取り出し、矯正画像出力部の上記アドレス部位におけるプレイヤの肩からクラブヘッドを結ぶ線を表示させプレイヤのクラブロッドとの角度を略々正しい角度に設定出来るようにしたアドレス側面矯正画像を上記静止画像に重ね併わせ、重ねあわせた画面に文字入力、音声入力的一方または双方により適切なアドバイスの文字表示をなし、次いでクラブトップの側面を静止画像で取り出し、矯正画像出力部の上記クラブトップ部位でクラブグリップを握った両手の部分と両肘によって形成三角形を正しい角度に設定出来るようにしたクラブトップ側面矯正画像を上記静止画像に重ね併わせ重ねあわせた画面に文字入力、音声入力的一方または双方の適切なアドバイス表示をなし、さらにクラブトップの正面を静止画像で取り出し、矯正画像出力部のクラブトップにおける正面部位はプレイヤの両肩幅が長手幅となる楕円形を表示させ、同プレイヤの両膝の幅が長手幅となる楕円形を表示させ両楕円形を垂直方向で結ぶ平行な二本の線で作られる略々正しい円柱状の線クラブトップ正面矯正画像を上記静止画像に重ね併せた画面に文字入力、音声入力的一方または双方の適切なアドバイス表示をなし、インパクト側面部位を静止画像で取り出し、矯正画像出力部のプレイヤの肩からクラブロッドとヘッドを結ぶ線を表示させかつ、同プレイヤの背面中央腰の上端と突き出された右足の膝先端を結ぶ線を表示させそれぞれの線が略々正しい角度で平行に設定出来るようにしたインパクト側面矯正画像を上記静止画像に重ね併わせ重ねあわせた画面に文字入力、音声入力的一方または双方の適切なアドバイス表示をなし、この画像をビデオテープに記録することを特徴としたゴルフスイングが正しく成されているか否かの見極めと矯正表示方法

【請求項3】上記請求項1の装置と請求項2の方法で得られたことを特徴としたゴルフスイングが正しく成されているか否かの見極めとその矯正ビデオテープ

【発明の詳細な説明】

【0001】

【この発明がなされた背景】ゴルフはフォームのゲームと言われている。フォームが正しければ「結果よし」と言われる程である。この正しいクラブスイングフォームはプレイヤのプレイの随所に表われるが、概ねゴルフスイングのアドレス時の側面部位、クラブトップ時の側面

と正面部位、インパクト時の側面部位の姿勢が正しく採ら得られて居るか否かが重要である。

【0002】即ち上記アドレス時の側面部位における正しい姿勢とは、プレイヤーの肩からクラブヘッドを結ぶ線をとプレイヤーのクラブロッドとの角度にある。その角度は使用するクラブの長さ等で異なるが略々正しい角度

(通常10度から25度)に保つようにする事が好ましいのである。またクラブトップ側面部位での姿勢では、クラブグリップを握った両手の部分と両肘によって形成される三角形の底辺が水平な正三角形に近い姿勢となることが好ましいのである。

【0003】この時のクラブトップにおける正面部位はプレイヤーの両肩の丸みを囲む線が水平な楕円形のような形状となり、同時にプレイヤーの両膝の丸みを囲む線が上記肩の楕円形と平行で、しかも両楕円形は同一垂直線方向、言換えれば楕円と二本の線で作られる略々正しい円柱状の姿勢となるのが好ましいのである。続いてインパクト時の側面部位は、プレイヤーの肩からクラブロッドとヘッドを結ぶ線と、同プレイヤーの背面中央腰の上端と突き出された右足の膝の先端を結ぶ線のそれぞれの線が略々正しい角度(通常10度から25度)で平行になるような姿勢が好ましいのである。

【0004】しかし、プレイヤーはこのクラブスイングフォームの「正しい姿勢」が頭の中では分っていても、現在の自分の姿勢がその正しい姿勢と同等と誤認している場合が多い。その主な原因は、プレイヤーが自分のクラブスイングフォームを実際に見る事が出来ない。またビデオに録画する等して出来たとしても正しいクラブスイングフォームと比較検討することが出来ない。いいかえればゴルフスイングが正しく成されているか否かの見極めが出来ないことおよびその矯正方法が分からないことに起因すると考えられる。

【0005】

【この発明の目的】そこでいま、プレイヤーは自分のクラブスイングフォームをビデオフィルムで撮影しておき、この撮影されたスイングフォームと例えば「プロ」のスイングフォームのような正しいフォームと重ね併せて観る事ができ、従って自分のスイングが正しく成されているか否かの見極めることが出来、しかも必要なら音声又は文字表示の一方或いは双方によって適切なアドバイスを受けられるとしたら、自己のスイングフォームの矯正が確実になしうること確かである。この発明は係るゴルフファの要望に寄与する目的の為に成されたものである。

【0006】

【発明の構成の特徴】この発明の特長は、少なくともゴルフスイングのアドレス側面部位、クラブトップ側面及び正面部位、インパクト側面部位、が撮影された矯正される以前のビデオフィルムと、この矯正以前のビデオをディスプレイ上に取り出し少なくとも上記アドレスの側面

部位、クラブトップの側面及び正面部位、インパクト側面部位、で静止画像が得られるコンピュータの静止画像出力部と、上記アドレス部位におけるプレイヤーの肩からクラブヘッドを結ぶ線を表示させプレイヤーのクラブロッドとの角度を略々正しい角度に設定出来るようにしたアドレス側面矯正ファイル、クラブトップ側面部位でクラブグリップを握った両手の部分と両肘によって形成される三角形を10度乃至25度の正しい角度に設定出来るようにしたクラブトップ側面矯正ファイル、この時のクラブトップにおける正面部位はプレイヤーの両肩幅が長手幅となる楕円形を表示させ、同プレイヤーの両膝の幅が長手幅となる楕円形を表示させ両楕円形を垂直方向で結ぶ平行な二本の線で作られる略々正しい円柱状の線を描きクラブトップ正面矯正ファイル、インパクト部位、プレイヤーの肩からクラブロッドとヘッドを結ぶ線を表示させかつ、同プレイヤーの背面中央腰の上端と突き出された右足の膝の先端を結ぶ線を表示させそれぞれの線が略々正しい角度で平行に設定出来るようにしたインパクト側面矯正ファイルのそれぞれを少なくとも有する矯正画像出力部と、上記静止画像出力部の出力信号と矯正画像出力部の信号を重ね併せせる手段と、重ね併せた画面に音声入力により文字表示をする手段と、この画像をビデオテープに記録する手段とを備えたことである。

【0007】

【本発明の作用の説明】而して今、上記矯正される以前のビデオフィルムからコンピュータのディスプレイ上に上記アドレスの側面部位を静止画像で取り出し、矯正画像出力部の上記アドレス部位におけるプレイヤーの肩からクラブヘッドを結ぶ線を表示させプレイヤーのクラブロッドとの角度を略々正しい角度に設定出来るようにしたアドレス側面矯正画像を上記静止画像に重ね併わせ、重ね併せた画面に文字入力、音声入力的一方または双方の適切なアドバイス表示をなし、次いでクラブトップの側面を静止画像で取り出し、矯正画像出力部の上記クラブトップ部位でクラブグリップを握った両手の部分と両肘によって形成される三角形を正しい角度に設定出来るようにしたクラブトップ側面矯正画像を上記静止画像に重ね併わせた画面に文字入力、音声入力的一方または双方の適切なアドバイス表示をなし、さらにクラブトップの正面を静止画像で取り出し、矯正画像出力部のクラブトップにおける正面部位はプレイヤーの両肩幅が長手幅となる楕円形を表示させ、同プレイヤーの両膝の幅が長手幅となる楕円形を表示させ両楕円形を垂直方向で結ぶ平行な二本の線で作られる略々正しい円柱状の線を画いたクラブトップ正面矯正画像を上記静止画像に重ね併せた画面に文字入力、音声入力的一方または双方の適切なアドバイス表示をなし、次いでインパクト側面部位を静止画像で取り出し、矯正画像出力部のプレイヤーの肩からクラブロッドとヘッドを結ぶ線を表示させかつ、同プレイヤーの背面中央腰の上端と突き出された右足の膝先端を結ぶ線を表示

させそれぞれの線が略々正しい角度で平行に設定出来るようにしたインパクト側面矯正画像を上記静止画像に重ね併せた画面に文字入力、音声入力的一方または双方の適切なアドバイス表示をなし、この画像をビデオテープに記録することでゴルフスイングが正しく成されているか否かを見極めこれと同時にその矯正表示方法を表示するようにしたものである。

【0008】なお、上記請求項1の装置と請求項2の方法で得られたゴルフスイングが正しく成されているか否かを見極めとその矯正された表示がなされたビデオテープもこの発明の特長となっている。

【0009】

【本発明の効果】この発明の効果は下記の通りである。

(1) 自分のクラブスイングフォームを矯正したいゴルフプレイヤーは自分の当該フォームをビデオフィルムで撮影しておくだけでよい。即ち本発明装置を所有している場合は自分で、そうでない場合は業者に委託するなどして矯正されたビデオフィルムを得ることが出来るのである。即ちこの正しいクラブスイングフォームはプレイヤーのプレイの随所に表われるが、概ねゴルフスイングのアドレス時の側面部位、クラブトップ時の側面と正面部位、インパクト時の側面部位の姿勢が正しく採ら得られて居るか否かが重要である。そこで

【0010】(2) この撮影されたスイングフォームと例えば「プロ」のスイングフォームのような正しいフォームと重ね併せて見る事ができ、しかも必要なら音声又は文字的一方または双方の表示によって適切なアドバイスを受けられるようになっているから、自己のフォームの矯正に役立たせることができるのである。

【0011】(3) 具体的に、アドレスの姿勢が正しいか否かを見極め矯正するには、上記矯正される以前のビデオフィルムからコンピュータのディスプレイ上にアドレスの側面部位を静止画像で取り出し、矯正画像出力部のアドレス側面矯正画像に重ね併せる操作でよい。即ち、上記矯正画像にはプレイヤーの肩からクラブヘッドを結ぶ線とプレイヤーのクラブロッドとの角度を略々正しい角度の表示がなされているので、もしこの表示とプレイヤーの姿勢が一致する場合は正しい姿勢にあることが見極められ、これとは逆に一致しない場合は姿勢が悪い部分を見極めることができるのである。従ってこの悪い部分を念頭に置いて正しい姿勢に矯正する練習を行ない、練習後のビデオで再び上記操作を行なえば矯正された正しいフォームに容易に到達出来るのである。

【0012】同様に、クラブトップ側面部位での姿勢が正しいか否かを見極め矯正するには、矯正画像出力部の、クラブグリップを握った両手の部分と両肘によって形成される三角形の表示と重ね併わせ、クラブトップにおける正面部位アドレスの姿勢が正しいか否かを見極め矯正するには、矯正画像出力部の上記円柱状の表示に重ね併わせ、インパクト時の側面部位の姿勢が正しいか否

かを見極め矯正するには、矯正画像出力部のプレイヤーの肩からクラブロッドとヘッドを結ぶ線と、同プレイヤーの背面中央腰の上端と突き出された右足の膝の先端を結ぶ線のそれぞれの線の表示に重ね併わせればよいのである。

【0013】(4) 更に上記重ね併された画像には、例えばゴルフプロのようなアドバイザが文字入力して特に悪い部分の指摘や矯正時の適切なアドバイスを表示させる事が出来る。更にこの事は通常のビデオと同じく音声でも成し得るのである。

【0014】(5) このように自己のフォームが正しいか否かを見極めたい人は、上記自分のフォームと正しいフォームの表示が重ね併せられ、かつ文字図形表示及び或いは必要に応じて音声が入力されたビデオを練習の都度自宅等で容易に学習することができるのである。なお、上記自己のフォームが正しいか否かを見極めたい人のビデオテープに撮影された各部位の画像と、矯正画像出力部の各表示と大きさにおいて異なることが多いがこの場合従来公知の拡大又は縮小機能で矯正画像出力部の各表示を拡大又は縮小させ、見極めたい人のビデオテープに撮影された各部位の画像と略々同等の大きさとするものである。

【0015】また、ゴルフの基本的なかつ重要なフォームは例えばフニッシュ（打撃終了時）の腕のたたみ方など随所にある。本発明は上述した各ゴルフフォームの部位、又は矯正画像出力部の各表示に捕われることなく凡ゆるフォーム部位の表示、矯正に適用出来るのである。

【0016】上記の本発明では正しい矯正画像出力部の各表示ファイルを予め入力しておくことで説明した。しかし実際の矯正作業即ち見極めたい人のビデオテープに撮影された各部位の画像に各表示ファイルを所謂書込み作業することが多い。本発明はこの様な作用でもその技術的範囲に属するものである。さらに上記述べた以外にもこの発明には優れた特長及び優れた作用効果があるが、それらは以下の実施例で詳細に説明する。

【0017】

【実施例の構成の説明】第1図で1は矯正以前のビデオテープで、少なくともゴルフスイングのアドレス側面部位【第3図の1】、クラブトップ側面部位【第3図の2】及び同正面部位【第3図の3】、インパクト側面部位【第3図の4】、が撮影されている。なお、この実施例では右利きの人の場合を例にとった。従って左利きの人の場合の説明の表現は逆となること勿論である。

【0018】2は通常のパーソナルコンピュータ対応のVTRで、この実施例では日本電気製PV-S96COMBOYを用いた。3は通常のパーソナルコンピュータで、上記矯正以前のビデオテープ1からの画像をVTR2を経て通常のパーソナルコンピュータ3のディスプレイ上に静止画像で取り出せるものであればよい。この実施例では日本電気製PC-9801-DAを用いた。な

お、上記出力画像は少なくとも第3図の夫々に示したように、少なくとも上記アドレスの側面部位、クラブトップの側面及び正面部位、インパクト側面部位の静止画像が得られるものであること勿論である。

【0019】4は矯正画像出力部（ファイル郡）であり、この出力部4は本件の発明者らが開発したものである。しかして5は、第3図の1のアドレス側面矯正ファイルの画像を示したもの（但しこの図面はプレイヤのビデオ静止画像と重ね併せてある。以下同じ）で、プレイヤの肩からクラブヘッドを結ぶ線6を描き、プレイヤのクラブロッドの線7との角度 α が正しい角度（約15度）に設定し表示してある。

【0020】なお、上記プレイヤの左肩6からクラブヘッドを結ぶ線7をその低下にプレイヤのグリップ8の位置まで平行移動させた時の線9は、後述するクラブトップの位置にクラブが来た時夫々の線7と9との間に当該クラブがあることが重要であることを示したものである。

【0021】10はクラブトップ側面矯正ファイルでこれは第3図の2で示した。而してこのクラブトップ部位でクラブグリップを握った両手の部分11からプレイヤの左肩12に向う線13を描き、プレイヤ自身のほぼ中心のスイング軸線14を上記線13とは略々直角に描く。次いで上記スイング軸14と平行にプレイヤの右肘15を通る線16を描き、さらにこの時この右肘15と左肘17とを結ぶ線18を描くことによって底辺が平行な三角形19が正しく描かれていることが重要である。

【0022】20はクラブトップにおける正面ファイルで、プレイヤの両肩幅21、22が長手幅となる楕円形23を描き、さらに同プレイヤの両膝24、25の幅が長手幅となる楕円形26を表示させ、上記両楕円形23、26の両端を垂直方向で結ぶ平行な二本27、28の線で作られる略々正しい円柱状の線29を表示させてあることが重要である。

【0023】30はインパクト側面矯正ファイルで、プレイヤの左肩31からクラブロッドの線7とヘッド32を結ぶ線33を描き、かつ同プレイヤの背面から腰中央の上端34と突き出された右足の膝35の先端を結ぶ線36を表示させ、それぞれの線33と36が略々正しい角度で平行に表示させてあることが重要である。

【0024】37は上記静止画像の出力信号と矯正画像の上記各ファイルの出力信号を重ね併せる手段であるが、この重ね併せ作業は上記パーソナルコンピュータ3で操作される。38は文字表示をする手段で詳細な図示及び説明をしていないが、重ねあわせた画面に文字或いは必要に応じて図形を表示出きればよく、この実施例では日本国法人ローレルバンクマシン株式会社製の入力ペン方式DX（LKP-1200）と、AP専用項目入力シートを用いた。

【0025】39は重ね併せた画面に音声入力により矯

正指導をする手段で、詳細な図示及び説明をしていないが、通常のマイクロフォンの音声を確認後のビデオに入力する為の装置、或いは後述する矯正業時に同時に音声入力出来る装置を持っている。また上記重ね併せた画像をビデオテープに再記録する手段は、上記録画再生装置（VTR）3と兼用出来るし勿論別に備えてもよい。なお、40は矯正画像出力部4と、重ね併せ手段のコンピュータ3間に介在させた矯正画の像拡大又は縮小手段である。

【0026】

【本発明の作用の説明】そこでいま、自分のフォームの矯正を受けたいプレイヤは自分のクラブスイングフォームをビデオフィルムで撮影しておく。この場合少なくともゴルフスイングのアドレス側面部位〔第3図の1〕、クラブトップ側面部位〔第3図の2〕及び同正面部位〔第3図の3〕、インパクト側面部位〔第3図の4〕が撮影されていることが肝要である。

【0027】而して今、上記矯正される以前のビデオフィルム1を駆動（第2図スタート41）させコンピュータ3に画像入力42し、そのディスプレイに上記アドレスの側面部位を静止画像で取り出す。ここで矯正画像出力部4からまず上記アドレス側面部位のファイル5を選出43をして呼出し、上記静止画像に重ね併せる作業44を行なう。

【0028】このアドレス側面部位のファイル5には、プレイヤの左肩6からクラブヘッドを結ぶ線7を表示させてあるから、矯正指導者は静止画像のプレイヤのクラブロッドと上記線7の角度を略々正しい角度（約10度から25度）にあるか否かを見極め、正しい場合は「貴方のアドレスの姿勢は正しいです。」との文字表示45をなす。文字表示をする手段38の操作は入力ペン方式の外マウス方式を用いてもよい。またこれを音声入力でも伝えてもよい。この場合は音声入力手段39を用いる。

【0029】また上記角度が略々正しい角度にない場合は「貴方のアドレスの姿勢は正しくありません。」等の文字表示45をなしたり、その原因がクラブグリップ部分の高さが高い位置にあるなら、該部分を低い位置に導く為の「↓」印など図形を表示すると共に必要に応じて音声で適切なアドバイスを伝えてもよい。

【0030】以下同様にクラブトップの側面を静止画像で取り出し、クラブトップ側面矯正ファイル10を重ね併せる。而してこのファイル10にはクラブグリップを握った両手の部分11からプレイヤの左肩12に向う線13、プレイヤ自身のほぼ中心のスイング軸線14、これと平行なプレイヤの右肘15を通る線16が描かれかつ、右肘15と左肘17とを結ぶ線18を描くことによって底辺が平行な三角形19が描かれているから、上記静止画像と比較して正しいか否かの見極めを行ない、上記同様文字図形入力、音声入力でも適切なアドバイスをすればよい。

【0031】さらにクラブトップの正面を静止画像で取り出し、これにクラブトップにおける正面ファイル20を重ね併せる。このファイル20にはプレイヤの両肩幅21、22が長手幅となる楕円形23と、同プレイヤの両膝24、25の幅が長手幅となる楕円形26と、両楕円形23、26を垂直方向で結ぶ平行な二本の線27、28とで作られる略々正しい円柱状の線29が描かれているから、これに上記静止画面を重ね併せることになり、以下先と同様のアドバイスを為すのである。

【0032】次いでインパクト側面を静止画像で取り出し矯正ファイルで30を重ね併せる。このファイル30には、プレイヤの左肩31からクラブヘッドの線7とヘッド32を結ぶ線33と、かつ同プレイヤの背面から腰中央の上端34と突き出された右足の膝35の先端を結ぶ線36とが描かれ、それぞれの線33と36が略々正しい角度で平行になっているから、これに上記静止画面を重ね併せることになり以下先と同様のアドバイスを為すのである。

【0033】なお上記重ね併せの作業時に、上記自己のフォームが正しいか否かを見極めたい人のビデオテープに撮影された各部位の画像と、矯正画像出力部の各表示と大きさにおいて異なることが多いがこの場合、矯正画

像の出力部4と、重ね併せ手段のコンピュータ3間に介在させた矯正画像拡大又は縮小手段40を操作し、矯正像出力部の各ファイルの表示を拡大又は縮小させ、見極めたい人のビデオテープに撮影された各部位の画像と略々同等の大きさとするものである。

【0034】以上見極めおよび矯正アドバイス等の操作が完了45したなら、この画像をビデオテープに再録画(エンド46)し依頼者に提供47するものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の装置のブロック図である。

【図2】本発明の方法のブロック図である。

【図3の1】ゴルフスイングのアドレス側面部位の説明図

【図3の2】クラブトップ側面部位の説明図

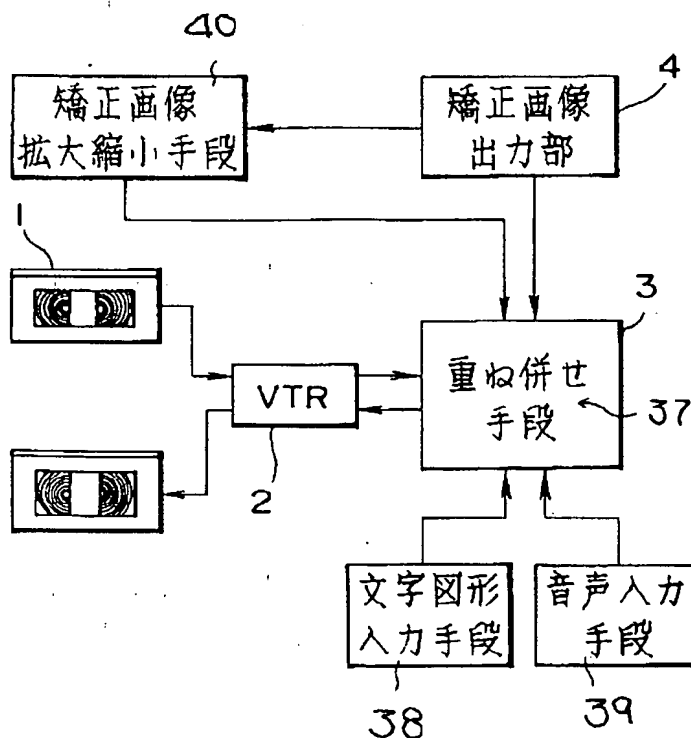
【図3の3】クラブトップ正面部位の説明図

【図3の4】インパクト側面部位の説明図

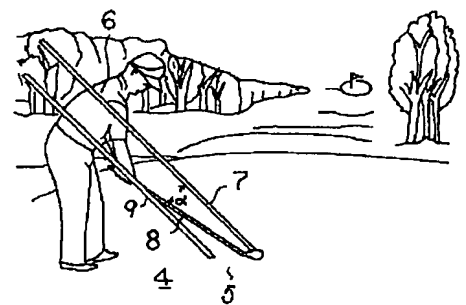
【符号の説明】

- 1 矯正前のビデオテープ
- 5 アドレス側面矯正ファイル
- 10 クラブトップ側面矯正ファイル
- 20 クラブトップ正面矯正ファイル
- 30 インパクト側面矯正ファイル

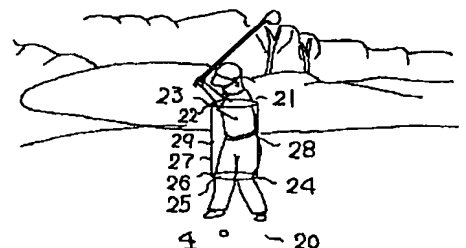
【図1】



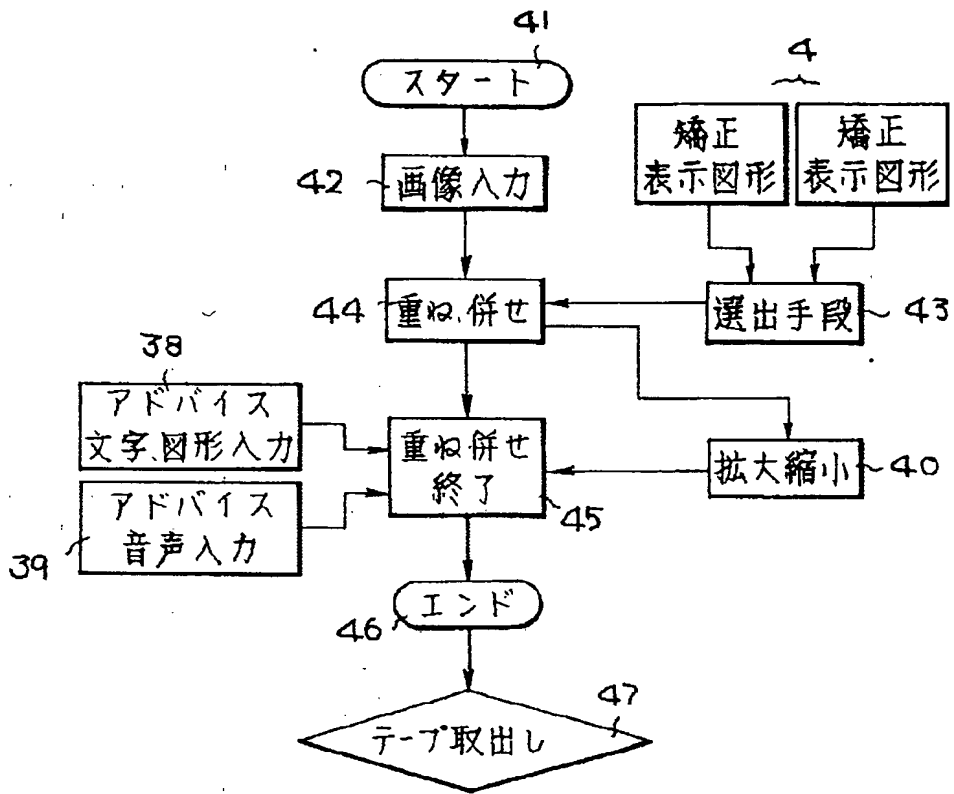
【図3の1】



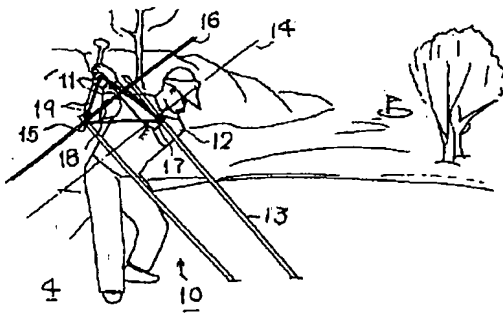
【図3の2】



【図2】



【図3の3】



【図3の4】

